

父子家庭 4人子育て

ここにいますよ

沖縄子どもの貧困

第2部 親は・・・(14)

⑨

産婦人科のマサキ(26)は昨年8月に離婚してから、男手一つで1歳から7歳まで4人の子育てを担っている。まだ幼い子どもたちはよく体調を崩し、そのたびに仕事を休まざるを得ない。1月は、下の3人が相次いでインフルエンザにかかり、マサキは看病に追われた。そのため、9日間しか働けず、給料は4万円に落ちた。

2歳半下の元妻は子どもを置いて外出したり、食事を作らないでいた。マサキは離婚して、子どもを全責任で取ることを決めた。ひとり親になった影響はすくなく、収入に表れた。産婦人科の仕事はもとより不安定で、雨が降ると働けない。それ

子の病気時働けず 給料激減



マサキと4人の子どもたち。子どもたちはまだ幼いが、できる家事を手伝ってくれる

仕事がない日も、予防接種などでも出勤する日曜が入る。お金の不足が、一大妻なのほどに気が重くなる。毎日午前5時とマサキは起き、子どもたちに食事をさせ、7時には家を出て保育園に送りつける。仕事が終わると、下の2人が通う認可保育園と、長男が通う認可外園、長女が通う学童保育を回って自宅に戻り、急いで夕食の準備を始める。

思いを口にする。離婚率が全国一高い沖縄県は、父子世帯の出現率も高く、0・9％と全国0・48％の倍に上る。県内の父子世帯の特徴として、就労年数が209万5千人、全国平均の360万を大きく下回ることがある。県母子貧困福祉連合会が県の委託で実施する、ひとり親世帯へのヘルパー派遣事業からは「残業で帰宅が遅い」「父親が家事が苦手で、家事を娘に教えてほしい」という依頼がある。思春期の娘の相談に乗れないなどの父子家庭の実態や悩みが明らかになる。

NPO法人こども家庭リンク・Nセンター沖縄理事長の藤原初穂さんは「男性は職場で長時間労働を求められることが多く、父子家庭は、母子家庭以上に仕事と家事・育児の両立が難しい」と指摘。父子家庭の実情に合わせて支援策の必要や職場や社会の理解を訴えた。

(文中仮名)
 (子どもの貧困)取材班・高橋陽子) 〓火々木輝日曜版